

特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

知的障害特別支援学校における教科別の指導（高等部・保健体育科） —全員がバレーボールに熱中する、「授業ユニバーサルデザイン」の実践

実践のポイント

- 「ボッチャ」「キックベースボール」「バレーボール」の3種目から生徒が1つを選択し、練習やゲームに楽しみをもって仲間と協力し、主体的に取り組んだ実践です。「バレーボール」でのゲームのルールやボールの種類を考え、生徒たち全員の「できる状況」をつくりました。

授業実践 **単元名「みんな大好き、バレーボール」**（選択種目）

単元設定の理由

高等部1年の体育は、適切な運動習慣や体力、技能、集団行動やルール・規則を守る力、自主的に活動に参加する力などを身に付けることをねらいとしています。今回の「選択種目」では、11名の生徒がバレーボールを選びました。ルールの理解や技能面ではそれぞれ大きな力の幅はありますが、自分から希望したため、授業に意欲的に取り組もうとする生徒たちです。

単元目標

- バレーボールに親しみ、練習やゲームに楽しく参加できる。ルールを守り、安全に気を付けて自分から進んで活動に参加することができる。

（関心・意欲・態度）

- チームの友達と協力して準備や片付けを行ったり、チームで作戦を立てたりすることができる。

（思考・判断・表現）

- サーブ、トス、スパイクなどのバレーボールの基本的な技能を知り、ゲームに生かすことができる。ゲームの中で友達にパスをしたり、トスを受けたりして2段攻撃や3段攻撃をすることができる。

（知識・理解、技能）

指導構想

選択した生徒全員がバレーボールに興味をもって練習やゲームに積極的に参加できるよう、基本的な技能の習得をねらい、パスでは、ボディーイメージの苦手な生徒にはボールの捕え方を、力のコントロールが苦手な生徒にはボールの勢いで相手にパスができることを伝え、繰り返し練習します。スパイクでは、打つタイミングやジャンプをするタイミングに合わせて「はい」と言葉掛けをして感覚がつかめるようにします。また、チームで円陣パスを行い、長くラリーが続くためにはどうしたらよいかを考える場面を設けたり、教員がアドバイスをする時間をつくったりすることで、

生徒がゲームを楽しめるための指導計画

＜○目標 ・活動内容＞（計15時間計画）

- 1次** 「種目を選ぼう」（1時間）

- 「3種目のスポーツを体験し、取り組みたい種目を選ぶことができる。」

・体験、選択

- 2次** 「バレーボールをやってみよう」（8時間）

- 「パス、サーブ、スパイクを覚え、安全に取り組むことができる。」「バレーボールのルールを覚えることができる。」「友達にパスをしたり、トスを受けてスパイクを打ったりして2段・3段攻撃をすることができる。」

・ルールの理解

・パス、サーブ、スパイクの練習

- ・風船バレーボールを使ってのルールを限定したゲーム（5/8時間目）

本時

- 3次** 「バレーボールを楽しもう」（6時間）

- 「チームで考えた作戦に沿って自分の役割を果たすことができる。」

・チームで作戦やポジション、フォーメーションを考え、練習やゲームを行う。



ボールをつないで得点に結び付けていく集団技能の獲得を目指します。さらに、毎回、「1人が2回連続でボールに触れない」ことや「必ず2人以上がボールに触れないと相手コートに返せない」など、ルールを限定してゲームを行うことで、友達にパスを出したり、トスを上げてもらったりしてスパイクを打つなどの姿を目指します。ゲームでは、チームで協力して作戦を立てたり役割を果たしたりすることでどの生徒もバレーボールを楽しむ姿を期待しています。

どの生徒も分かって動けるための4つの視点

○ 活動設定

- ・活動に見通しがもてるように、パス、サーブ、スパイクなどの個人技能の練習、チーム練習、ゲームというパターンの学習展開にする。
- ・毎回始めにランニング、体操を行い、体を温め十分にほぐしてから主活動に臨む。
- ・3次では、ゲームの前にチームの作戦や役割を確認する場面を設ける。

○ 教材・教具

- ・柔らかくボールコントロールがしやすいソフトバレーボールを用いて活動する。
- ・円陣パスやゲームでは、ラリーが続くやすいように風船バレーボール用のボールで行い、生徒の技能の向上に合わせてソフトバレーボールに変えていく。
- ・バドミントン用のネットを使ってスパイクやサーブが打ちやすい高さにする。

○ 環境設定

- ・チームで決めたフォーメーションが理解しやすいよう、コートの位置に印を付けておく。
- ・スパイク練習の際にネット付近にボールが転がらないようにミニハードルで囲い、安全を確保する。

○ 教師の働き掛け

- ・生徒が自信をもって取り組めるよう改善点や助言、また、良いプレーは積極的に称揚する。
- ・教師も一緒に円陣パスに参加することで、良いプレーの手本を示すようにする。

本時の目標と展開

⇒支援

目標となる姿

目標

- ・トスされたボールをスパイクし、相手コートに返すことができる。
- ・ルールを守ってゲームをすることができる。

展開

- ランニング、整列、挨拶、ラジオ体操
- 友達と協力してネットやボールを準備する。
- パス練習⇒手の組み方やボールの当たる位置の手本を示す

- スパイク練習⇒個々の目標を決める。
 - ・トスのタイミングに合わせてジャンプし、ネットの上からスパイクを打つことができる。
 - ・相手コートに入るように力を加減して片手でボールを打つことができる。
- ・目標の自己評価、相互評価、教師からの評価

⇒ジャンプの踏切の目印になるラインテープ

⇒落下のタイミングに合わせた声掛け、称揚

○ 円陣パス

⇒パスを出す相手の名前を呼ぶよう伝える。

⇒パスをするときは、ボールを上上げるように伝える。

- ゲーム⇒個々の目標を決める。
 - ・2回連続でボールに触れない、2人以上の人がボールに触れるというルールを守ってゲームをすることができる。
 - ・目標の自己評価、相互評価、教師からの評価
 - ・上手くできるようになったこと、楽しかったことを発表し合う。

⇒トスが上がる場面が多くなるように風船バレー用のボールを使い、ラリーが続くようにサーブはネット付近から行うようにする。

⇒評価とともに、感想を発表したり聞いたりする場面を設定し、「伝える、聞く」役割を明確にして、生徒同士の対話の体験を積み重ねる。

○ 友達と協力して用具を片付ける。

○ 整理運動、整列、挨拶